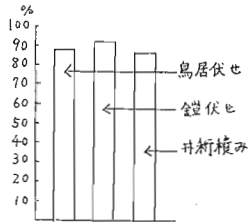


3) ホダ付きについて

9月末における剥皮調査の結果は第3図に示すとおり、各伏せ込み方法とも良好で87%以上を示し、伏せ込み方法別間には大差がなかったが、鏝伏せのホダ付きが最もよかった、一方第3図 伏せ込み方法別ホダ付き率



方害菌については各方法別共一部、ダイダイタケ、アラカビの発生がみられ、そのうちでも井桁積みの発生が多く10%程度であった。

5. むすび

以上のとおり、アカシア林内の温、湿度は人工ホダ場と大差がなく、どの伏せ込み方法を用いても伏せ込み場所として適していることが認められた、しかしな

がら林内の温、湿度は気象条件、方位、樹種樹令、植栽密度等により差があり、以上の結果もこれらの環境により差を生ずることは当然である。従ってアカシア林を伏せ込み場及びホダ場として使用する場合は4~7年生頃までか、ホダ場専用とする場合は3~4年生頃、稍頭部切断による枝張りを促進させることが望ましいと考へられる。

参考文献

- 1 シイタケ原木の乾燥程度とホダ付き、温水竹則、日高忠利、久保田鴨子 日林九支講第19号
- 2 シイタケ原木の生材含水率と重量減少率について 温水竹則、日高忠利、久保田鴨子 日林九支講第20号
- 3 人工ホダ場に関する考察 主計三平 日林九支講第20号

107. マツタケ試験について (第2報)

長崎県総合農林センター 古賀 淳

昭和42年度マツタケ試験の第2年目の状況を御報告します。

1. 試験地の設定並に施業

(1) 試験地設定 環境改善試験を行うため次表のとおり灌水、地表掻起し、庇陰調節の3施業を組み合わせて10試験区を設置した。面積は各区10m×10mの100㎡とし各区共菌環1個以上を包含させた。

1. 試験区設定表

試験区	施業種		
	灌水	掻き起し	庇陰調節
1	0	0	0
2	0	×	0
3	0	×	×
4	0	0	×
5	×	0	0
6	×	×	0
7	×	×	×
8	×	0	×
9	羊	菌	全刈区
10	羊	菌	条刈区

(2) 施業の実施

7月17日から9月19日の間に試験地設定に引き続き施業を実施した。

- 灌水 8月18日 各区 40ℓ (菌環散布)
 9月 7日 " 300ℓ (全面散布)
 9月19日 " 50ℓ (菌環散布)

地表掻起し並に庇陰調節の施業は設定と共に7月中に完了した。

2. 環境調査

- ア 植生調査、試験区毎に調査し、コロラード法、トランセクト法により図示
- イ 気象調査、調査区内に自記温度計、自記地中温度計を設置し測定
- ウ 雑草調査 試験林内の雑草を採取し標本を作成した。

3. マツタケ発生調査

ア 春マツタケの調査 調査区最上端菌環 A₃ で5月19日1個を採取した。

この日の地中温度 max 18°C、mini 16°C、傘

の直径6cm、柄の長さ9cm、重量62g春まつたけは秋のものより小型で、香り色彩共に淡く、柄も細く、総体にひ弱な感じであった。

イ 秋マツタケの調査

42年度における発生量は別表の通りで過年度との比較は次項で述べたい。

2. マ ツ タ ケ 発 生 調 査

菌蹠番号	採取月日	本 数				重 量				採取月日	本 数				重 量			
		つぼみ	中つぼみ	開	計	つぼみ	中つぼみ	開	計		つぼみ	中つぼみ	開	計	つぼみ	中つぼみ	開	計
A 1	41.10.14	1	1		2	37	47		84	42.10.30	3	1	6	10	107	48	371	526
"	" 15		2		2		74		74	11.1			2	2			142	142
"	" 17	5	6		11	167	250		417	" 4			1	1				
"	" 19		1	1	2		32	22	54	" 11	1			1	45			45
"	" 21			2	2			42	42	小 計	4	1	9	14	152	48	543	743
小 計		6	10	3	19	204	403	64	671									
A 2	10.14	1	3	5	9	52	290	612	954	10.30			2	2			256	256
"	" 18	2			2	160			160	小 計			2	2			256	256
"	" 19			1	1			166	166									
"	" 20	1			1	88			88									
"	" 26		1		1		12		12									
小 計		4	4	6	14	200	302	778	1380									
A 3	10.14			3	3			250	250	11.29			1	1			30	30
小 計				3	3			250	250	小 計			1	1			30	30
A 4	10.18	1			1	50			50									
"	" 25		1	1	2		22	56	78									
小 計		1	1	1	3	50	22	56	128									
A 5	10.25			3	3			210	210									
小 計				3	3			210	210									
A 6	11.8			1	1			48	48									
小 計				1	1			48	48									
合 計		11	15	17	43	554	727	1406	2687		4	1	12	17	152	48	829	1,029

※ 期間 自 41.10.14 至 41.11.8

自 10.30 至 11.29

4 旱害の影響調査

(1) 気象条件 別表

イ 降水量 ロ 地温 ハ 気温
ニ 湿度 ホ 林内地中温度

(2) マツタケ発生に及ぼした影響

調査区における採取個体数は39.5%、重量で38.3%に減少し凶作年となった。

秋季発生の初期で16日、終期で21日の遅延が認められた。

ア 雨量 別表4ヶ月計で42年221mm、41年518mm、40年561mmで極端な乾燥が菌糸の発達と発生を抑制した。

イ 湿度、過去3ヶ年の最低値を示し、子実体の生育を妨げた。

ウ 気温 逆に3ヶ年中最高を示し、マツタケ発生期間を延長させる方向に働いた。

エ 地温 気温と同様最高であり、9~11月の間に最高最低の巾が広くなり、発生を抑制したの

ではなからうか。

その外マツタイ虫駆除で枯損木を伐採し日照量が大となり悪影響を及ぼしたと考へられ、上

記諸因子が相互に関連してマツタケの発生を阻害したものであろう。

3. 気象調査表

イ、降水量

ロ、地温

年別	月別				年別	月別			
	8	9	10	11		8	9	10	11
1965	191	113	68	189	全	26.1°	21.0°	16.2°	13.8°
1966	111	171	77	159	全	27.4	23.0	17.7	12.7
1967	126	2	93	134	全	27.6	24.0	17.7	13.5

ハ、気温

ニ、湿度

年別	月別				年別	月別			
	8	9	10	11		8	9	10	11
1965	24.7°	18.6°	12.2°	6.5°	全	79%	77%	75%	76%
1966	28.8	23.1	17.2	11.4	全	75	74	79	78
1967	28.1	23.8	18.5	12.8	全	75	65	70	75

ホ、林内地温

年別 月日	1966		1967		年別 月日	1966		1967	
	最高	最低	最高	最低		最高	最低	最高	最低
9.29	21.5	20.5	+0.5	-1.0	11.7	16.5	15.0	+0.5	+1.0
			22.0	19.5				17.0	16.0
10.3	19.5	19.0	+0.5	+0.5	11.9	16.0	15.0	+0.5	±
			21.0	20.5				16.5	15.0
〃18	21.5	19.0	+3.0	-2.0	11.15	18.5	14.5	-3.0	-2.5
			18.5	17.0				15.5	12.0
11.1	17.5	16.0	+1.0	-0.5	12.8	-11.0	8.5	+3.5	+1.5
			18.5	15.5				14.5	10.0

4. 気象比較グラフ

